

# 片桐EXゼミ

2010

教員 片桐徹也

- 3年 岡俊輔
- 2年 江刺莉沙
- 2年 田邊大輔
- 2年 山本良太
- 2年 加藤拓哉
- 2年 真田竣太郎

OG3年 渡部亜裕子

# 片桐ゼミに入ったきっかけ

- ▶ 多摩市出身で、最近衰退気味だと感じていた。地域の役に立ちたかった（田邊）
- ▶ イベントが多いと聞き、地元でどんなイベントがあるのか、どんなことをするのか（山本）
- ▶ 多摩地域の人々と触れ合い、見えてくる問題を知り、考えたかった（真田）
- ▶ 今まで地域活動をしたことがなく、ここでは具体的にどんなことをしていくのかと思った（加藤）
- ▶ 特技を活かし活動の可視化をしたいと思った（江刺）

# やってきたこと

どうすれば多くの学生が地域活動に参加してくれるか。その手段としての【地域SNS】とはどういったものか。

それを視野に地域活動に参画

# 諏訪小学校運動会

- ▶ 5月29日  
小規模校の運動会の運営学生スタッフをポスター・講義やゼミへの呼びかけ、説明会で募集



# 諏訪名店街

- ・オーガニック市
- ・5月29（土）・30（日）
- ・NPOあしたや
- ・ポスター・説明会で学生募集
- ・オーガニック商品販売
- ・撮影、記録
- ・七夕フェスティバル
- ・平成22年7月3日（土）・4日（日）
- ・法政大学・多摩大学・国士館大学・大妻女子大学
- ・内容（多摩大学・片桐ゼミ生）
- ・受付
- ・子供整理（流しそうめん）
- ・案内準備（ステージ）
- ・整理券
- ・あしたやさん
- ・写真ビデオ記録
- ・宣伝（その他）
- ・準備・片付けなど



# 永山商店街夏祭り

- ▶ 7月31日（土）
- 多摩大学の中国人交換留学生と共に、射的の屋台「ニイハオ射的」・お面販売・ビール販売



## ハロウィンin多摩センター2010

▶ 2010年10月30日(土)・31日(日)

### ▶ 内容

- 列準備・子供列整理・案内・通路確保
- おばけかぼちゃランタン制作
  - ・ 諏訪小放課後教室にて
- カメラ記録
- イベントコンセプト映像作成
- スポットゲームキャスト
- 準備・片付けなど



## ▶ seiseki sun marche

◦ 聖蹟桜ヶ丘 ハンドメイドの雑貨市@九頭竜公園  
9月12日第1回・10月10日第2回・11月14日第3回

設営居委員 机と椅子を多摩大から借りる

パフォーマー・学生スタッフ集め

当日運営



### ▶ 諏訪小学校放課後教室 諏訪小ふれんず

- ・ 法政・帝京の学生、小学校、地域の方々と連携  
事務、撮影記録、プレーヤー  
毎週火曜と定期で土曜日開催



## 地域活動で得たこと 学んだこと

## 多摩・諏訪オーガニック市(真田)

- ▶ 私の中で心に残っていることは、中国からの交換留学生の皆さんと一緒に参加した諏訪名店街オーガニック市です。日頃体験することはできない、**地域の人々と一緒に参加することでお客様の笑顔に近くで触れ、言葉では言い表せない良い思い出になりました。**



## ハロウィンin多摩センター2010 (加藤)

- ▶ ゼミ中で、最初に目標に定められていた大イベントだっただけに、他のイベント以上に、印象に残りました。
- ▶ 大人数の列整理、子供たちとの触れ合いなど、私の日常では、味わえないであろう体験をすることができました。
- ▶ **イベントを行うとき、臨機応変に動くことの大変さ、情報の伝達の重要性がわかりました。**



## 七夕フェスタ(山本)

私の心に残ったイベントは七夕フェスタです。  
なぜなら、初めてこういったイベントでリーダーを務めたからです。全体の流れを把握して、  
順次メンバーに連絡をしました。  
**人に手伝ってもらうことの難しさに気づきました。**



## ハロウィンin多摩センター2010 (田邊)

人生で初めてリーダーをし、打ち合わせや事前準備研修を通して、  
**責任の重さや大変さを肌で感じた。**

仕事をし、最後まで終わると、  
**一体感・仲間意識が生まれる。**  
**それを生きがいに活動しているのだと感じた。**



- ・諏訪小学校放課後教室諏訪小ふれんず
- ・ハンドメイド雑貨市 seiseki sunmarche (江刺)

法政大学・帝京大学  
諏訪小学校・地域の方々との連携

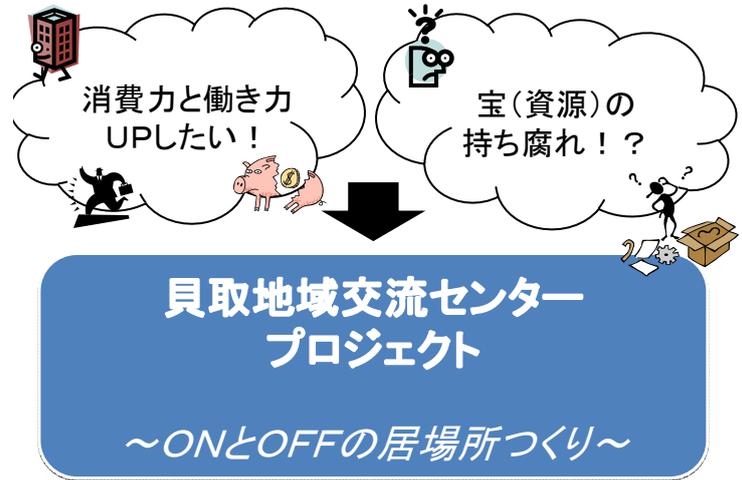
設営委員として  
机と椅子を貸し出してもらえよう  
多摩大学と交渉

**その過程で出来た仲間、  
地域活動の大切さ**



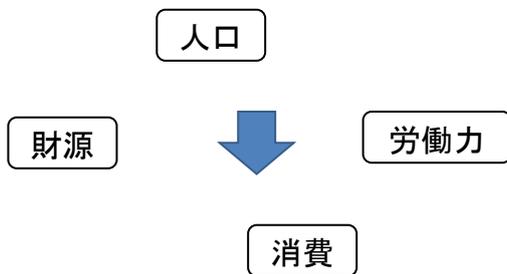
## 課題

校内で学生の地域活動参加の  
募集を掛けたが、  
人が予想以上に集まらなかった。



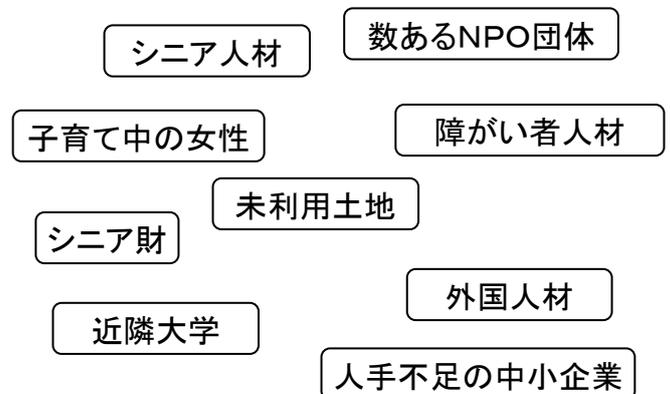
多摩大学 公民連携ビジネスプランニングゼミ 渡部亜裕子

## ハイスピード少子高齢化



多摩NTだけじゃない。  
日本全体が縮小社会へ向かっている

## 眠れる資源



この環境のままでは  
街の活気がなくなってしまう



**環境変革**  
暮らしやすい街づくり



人口流出防止

企業・住民誘致

人材資源活用

就労機会創造

消費機会創造

子育て環境改善



コミュニティカフェ **貝取地域交流センター**

### 貝取地域交流センター

おひとり様が  
集まれる

コミュニティ  
カフェ

仲間同士  
集まれる

個人商店誘致

### 貝取地域交流センター

昼:カフェ  
夜:居酒屋

消費機会提供

お年寄り  
お手伝い業

イベント  
スペース

### 貝取地域交流センター

リタイア世代

就労機会提供

障がいを持  
った方

子育てママ  
外国の方

候補地:

大丸ピーコック跡地

多摩市貝取2丁目

約1300㎡(400坪)

多摩センターより  
バスで15分





## おわりに ★プロジェクトゼミが果たしている役割

### □ 受講希望学生の思い

イベント型→未経験・未体験の学生が多く受講

: 願望実現、自己実現目的で関わる(リーダー役を体験してみたい等)

: 大学内に居場所が見いだせなかった(or 社会参画体験)

### □ 教員・大学の狙い

地域活動の主体者と連携(理念共有・若いアイデア・仲間力)し、地域経営的な観点で、その活動を広げる・深める・進捗させるための関わり行為を通して、地域の課題・問題が解決されていく仕組みを創出。結果、学生の仲間力、社会参画による経験値(現場力)の向上とイベント参画を通じて、プロジェクトを自分の体験として学ぶ。

### □ 地域の主体者(商店街・NPO団体・企業)

活動に刺激、学生個人のスキルを活かした問題解決、夢実現化、若手の育成

### ◆ 地域SNSの構築とは(ゼミテーマ)

★地域コミュニティ、地域づくり活動に関わるというプロセス(過程)そのものを体験。

★「仲間」の意味を知る: 共鳴共感なくして支援は得られず、屈辱感も味わうことで各人が様々な発見をする。自ら行動することが場を創るということを実感する。

★SNS(Social Network Service、社会的ネットワークをインターネット上で構築するサービスツール)は、「仲間と克つ」、それ自体の「輪」を連鎖させるツール

## 成果

□ 情報シャワー(未経験部分を情報で補う→煩わしさに耐えた先に☆)

□ 当事者意識の育み(行動で結果は変わる)

□ 仲間ががんばっている→応援・支援することの価値(共鳴・連鎖)

□ 単位取得認定(よくやった!!)

□ **実は地域は単年度で終わらない**  
**(継続性こそが信頼の担保)**

→OB/OGとしての複数年度参画が求められる

# 感謝

By 地域も学生もお互いに

学内 / サービス・ラーニングセンターへ

地域内 / フューチャーセンターへ